



いれ 歯

大 西 巖

消化を助けるために食物を十分噛むべしとの説と喉を通過し得るだけの大きさに碎きさえすれば歯の用は足るとの説があるようだ。また歯は肉類を噛むための犬歯と果物用の前歯と穀類用との合計32本から成っており、従って健康を保持するための肉類摂取量は全食物の4/32が理想的であるとの説もある。何れにしても歯が無ければ困ることは明らかであり、肉の嫌いな人でも肉用の歯を抜かれては不便である。

しかし、齢を重ねるに従い、いやでも歯はなくなって行く。木の葉の散ると変りないが、葉が自然に落ちて行くのに反し、歯は役にたたなくなれば自然をまたずに人が抜き去ってしまう。人里離れた土地は別としても一般には歯の持主よりも歯科医の手にかかって抜かれることの方が多し。私のかかりつけの歯科医さんは勤務先近くのY先生である。なかなか良心的で腕も確からしいと評判は良いが、私がY先生を選んだ理由はほかにある。

床屋と歯医者を敬遠する物臭男は私以外にも相当多いことと思うが、行きたくない理由としての共通点を考えてみると、まず時間を待たされること、それに自分の意志とは関係なしに顔や頭を勝手にひねくり回されることであろう。歯医者さんの方はまだその上に神経の生き残っている歯をガリガリと削るものだから余計に嫌われることになる。しかし、一旦処置をうける立場になってしまえば男性と女性とは感覚的に差異があるようだ。女の患者と歯科医の艶聞が少なくないのは口の中まで自由にさわられるためかも知れない。私の友人のN婦人科医はこの事実を認め、本家の自分達の方が却ってチャンスの少い理由を彼らしく説明している。つまり、患者と婦人科医のロマンスが歯科医より少いのは対象個所が余りにもリアルであるため、科学的観念以外の情緒らしきものが全然湧かないことによるらしい。女を口説く時に役立つようなこのデリケートな女性心理をもう30年前に聞いておればと私としても残念である。

.....
 レールを外して申し訳ない。私がY先生を選んだ理由は先生がこれを知ると甚だ遺憾に思われるであろうが、昼間は患者が少くて待たされることがほとんどないから

である。同じ理由で散髪もY先生の近くの床屋にきめてある。時々虎刈されることがあっても待たされるよりはましである。Y先生はここ数年間に私から10数本の歯を抜きとってしまった。2-3本は確かにこちらの意志で抜いて頂いたと記憶しているが、あとは頼んだ覚えがない。一番派手に抜かれたのは私の海外渡航準備中であった。

《欧米の医者ではあなたの健康保険書は効きませんよ。現ナマで処置してもらえば肉体の痛さよりも財布の方の痛さで目玉が飛び出します》

この面ではしおらしくも心を痛めている私に追打ちをかけるように

《どうせ役に立たない歯ばかりですから、めぼしい奴を5-6本抜いて行きなさい》

観念した私から2本ずつの歯が1日おきに引き抜かれて行った。

《ちょっと無理だとは思いますが、あとの日かすぎないので辛抱して下さい。少しでも早く義歯にとりかからねば》

近頃の魔睡用注射薬は凄く進歩しており、1本の注射で左右2本を抜歯できるくらいであるから、能率をあげるためには一度に偶数を抜歯するのが理想的かも知れない。しかし、注射針をはぐきの深部へグイグイツとさし込む時の痛さは格別であるし、ペンチで歯をつかんで捻り抜く時に、ギンギンツとはぐきの肉のちぎれる音が耳に入ると痛さとは別に気が遠くなって行くようだ。話を聞いているだけでもお尻の先がこそばくなるという人さえある。抜かれる人の身になれば能率向上もありがたいはない。

ある歯科の先生が患者の歯を抜く時に間違っても良い方の歯まで抜き、患者が憤がいすると

《良い歯の方の抜歯料は無料にしておきます》

しゃあしゃあとして言ったという笑い話があるが、抜く方が抜かれる方の気持でいてはこの商売は成り立つまい。しかし、Y先生はお歳でもあるし、ご自分も歯が悪いから抜かれる人の気持はよく判っている筈である。

《私は自分の歯の治療の時、先輩や後輩の医院へ行っ

てお願いしたのだが、要らぬ気がねをしてみたり、また先方の奥さんが気をつかっておられる物音を聞くに恐縮して2度と行けぬようになります。最近では自分で注射して自分で抜くのですが、こいつは痛いものですよ》

Y先生が物好きで私の歯を抜きたがっているとは思われないので、いつもおとなしく先生の意見に従うことにしている。

私が90日間の短い海外出張の期間を10日も縮めて帰国した理由は馬鹿遊びでお金をつかい過ぎ、残りが心細くなったことと、Y先生に造って頂いた義歯のはぐきの所に割れ目ができ、今にも折れそうになったためである。1カ所での滞在日数は短かいし、あちらの義歯の値段は心臓に悪いと聞かされていたため、ここで入れ歯が折れては万事休すと考えたからである。善良な友人達は

《奥さんが恋しくなったからに違いない》

と勝手に理由をつけてくれるので、私としてはペロリと舌は出さずとも、この最も無難な理由を有難く甘受している方が賢明であろう。

.....

《最初から覚悟はしていたのですが、欠張り健康保険の義歯は駄目ですわ》

と遠慮なく言うと、先生は

《そんなことはありません。偶然そんな結果になっただけです。健康保険の義歯だからといって手を抜く筈はありません。しかし、健保の悪い点は新しい義歯をつくる時にはあらたに歯を抜かねば造れないことです..... どうせ、ろくな歯は残っていないのですから、どれか1本抜いて新しい義歯をつくりましょう》

その後、義歯が損じてつくりかえる度毎に私の歯は1本づつつけにえに供され、今では下のほとんどが入れ歯とかわり、上2本は抜いたままである。いずれもう1-2本抜くと上も何とか処置してもらえることになっている。

なまの歯を1-2本残している時の義歯は新しいうちには取外しが幾分厄介であるが、つかい慣れてくると舌の先で簡単に押し出されるものである。人混みや満員の車中などで見知らぬ幼な児にそっと入れ歯を押し出して見せ、子供を泣かせて悦にしているような悪戯はテレビ劇にでてくる意地悪爺さんでなくてもやりかねない。私が幼い頃にこれを見せられた時は汚なさよりも不思議さが先であり、魔法つかいではないかと思ったくらいである。ことによっては大声をあげて泣き叫んでいたかも知れない。少し大きくなった頃、銭湯で何処かの老人が入れ歯を外して湯ぶねの中で洗い、ついでに湯を口に含んでゴ

ボゴボツ、プツと湯ぶねのそとへ吐き捨てるのを見たことがある。この時には背筋へゾツと寒気を覚えるほど不快であった。感覚は肉体と共に退化して行くものらしく、人間は若い頃には汚いと感じたことでも年寄りになると平気でやるのが沢山ある。銭湯でのうがいは格別としても。

いくら家族だけの食卓でも、食事のあとで親父が入れ歯を湯呑みのお茶に落してゆきぶり、箸で歯をつまみあげるなどはもってのほかである。“入れ歯スープ”よろしくそのお茶までも飲むに至っては何をか言わんやである。子供の頃の不快感を想い起こせば、そっと洗面所に立つぐらいのエチケットは是非ともほしい。

就寝前に入れ歯を外して枕もとの湯呑みの中に鎮座さすようなことは余りにもありふれている。わが骨箱とおぼしきものを枕もとに置いて寝ると夢は極楽浄土を駆けめぐるとも知れない。私の母などはふたをし忘れたため、湯呑みの中に入れ歯を用にひかれ、翌朝家探ししたこともある。ロマンスグレイのパパとして慕われていた彼氏だが、つい何の気なしに入れ歯を枕もとの湯呑みに入れたのがもとで若い彼女に逃げられたという“入れ歯エレジー”もある。近頃の若い子は物ごとを割り切っているとはいうものの入れ歯だけは別らしい。

寝る前に眼鏡は邪魔になるから取外したとて不思議ではない。入れ歯は不用であっても外す必要は見当らない。それにもかかわらず多くの人々によって取外されている所を見ると義歯には健康保険とは関係なしにしっかりと行かない本質的なものがあると考えてよからう。

.....

入れ歯は何かと苦勞の多い悲しいものである。その苦勞にもかかわらず、食べ物はすごく制限されてくる。するめ、たこの類、飴菓子、餅などは頂きにくい、けし饅頭やピーナツは小さいつぶが歯とはぐきの間に挟まって痛い。食べないで見ただけ、嗅ぐだけで辛抱しなければならぬ食物が増して行く。しかし、よく考えてみると歳をとるに従い、見るだけに変るのは食べ物だけではない。野球も蹴球も見ただけのスポーツである。不満を入れ歯だけにしわ寄せするのは当たらない。

歯が抜けると入れ歯、目がおとろえると老眼鏡、耳がききにくいと聴音器とそれぞれの対策があるが、対策の効かない奴が残っている。そいつは神様がもうその必要を認めておられないためか、あるいは色あせても多少はお役に立つ力を残しておいて下さっているためか明らかではないが、何れにしても入れ歯があるということだけでも有難いことである。総入れ歯の先輩によれば、不便なのは半入れ歯の時であり、全部義歯になると却ってよ

(以下32頁に続く)

(42頁より続く)

くなるという。漬物などもバリバリと噛めるという耳寄りな話を伺った。こうなると入れ歯にも前途に明るい希望が持てることになる。

近頃、色気のない遊びなら芸者遊びに限るらしい。お座敷に現われるのは60才前後のリバイバル芸者が多い。過日も南地の一流どころという前ぶれに期待していた所、ご光米を得たのは何れも相当くたびれた60才美人であった。芸者も一流なら年齢にも不足はない。

《大和屋や富田屋はいつから養老院に変わったの?》
とひやかすと

《今頃若い芸者などおりますかいな。長い間、芸ごとの辛抱などせんでも、アルバイトサロンへ行けばその日からお金になるもの》
成る程、今に芸者は稀少価値から文化財に指定されそうである。

《昔を思い出して一つ舞いまひよか》

芸はうまくても、60婆さんが裾をまくっての“あめしよぼ”はグロ以外の何物でもない。彼女達のきりのないおしゃべりも歳に輪をかけてえげつない限りである。

《あてら、旦那持つのやったら総入れ歯の人やないといややわ……》

《耳寄りな話だが、なぜ総入れ歯がよいの?》

《やばな人。歯が1本でも残ってたらあかんのや。ネエちょっと……》

彼女達は顔を見合して意味ありげにふくみ笑いしながら
《あんたも総入れ歯になったらおいんなはれ。あんじょう教えあげます》

入れ歯にもあれこれと先の希望がありそうだ。そして私もまだまだY先生との縁が切れそうにない。(大阪大学工学部熔接工学科教授)